

進化経済学会ニューズレター No. 13
Nov. 2002

進化経済学会事務局

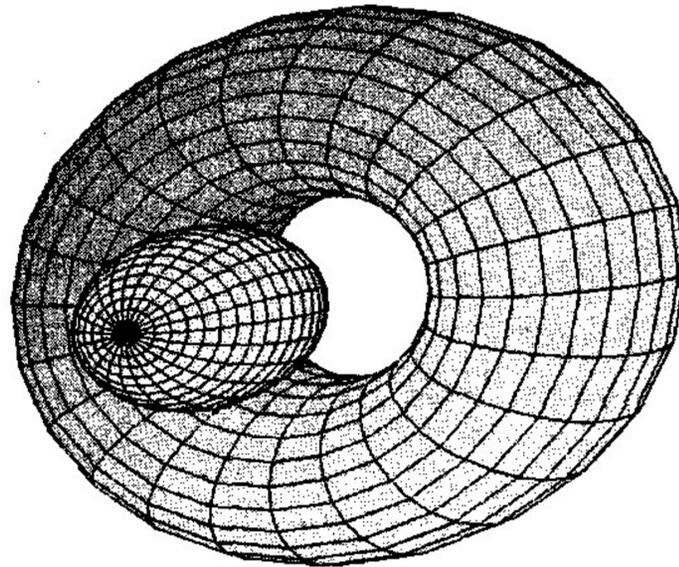
606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学経済学部気付

URL://www.econ.kyoto-u.ac.jp/societies/evolution

Tel.075-753-3427/3455 Fax:075-753-3492

e-mail:yagi@econ.kyoto-u.ac.jp

郵便振替口座：01030-1-22493 (進化経済学会)



記事

第II期第7回理事会報告

第6回大会採択報告タイトルとセッション区分案

第7回理事会での入会資格承認者

平成13年度決算

COS02 国際会議の報告

第2回中国制度経済学研究会に参加して

出版関係ニュース

名簿修正

第7回大会のおしらせ

第 II 期第 7 回理事会報告

1. 進化経済学会第 II 期第 7 回理事会は、2002 年 9 月 14 日の 12 時から午後 1 時半にかけて、専修大学生田キャンパス第 9 号館で開催された。出席者は、理事 16 名、監査委員、会長、副会長各 1 名の計 19 名で、理事 11 名から委任状が提出された。

2. 八木常任理事が会員状況の報告をおこなった。意思表示による自発退会者は 14 名であるが、会費滞納（3 年以上）にともなう会員資格喪失者（会則第 7 条）が 48 名あった。退会の意思表示をされた根岸隆理事に対して、瀬地山会長から、根岸理事のこれまでの本学会に対する支援に感謝のことばが述べられた。また、吉田常任理事から、今回の会員資格喪失者のなかにも、学会たちあげ時の支援者が多く含まれているという説明があった。

（会員資格喪失者および 6 月までの退会希望者は 6 月の役員選挙時に配布した会員名簿には掲載されていません。）

【自発退会者】 天野明弘、青沼弘明、市村真一、池尾愛子、門脇延行、加藤寛孝、根岸隆、西村清彦、太田仁樹、斉藤栄司、高橋昭雄、Ted Tschang、筒井義郎、安室憲一

【会則 7 条適用者】 阿比留正弘、馬場政孝、Bae MyongGyu、崔東術、藤原博彦、古澤巖、橋本了一、飯田善郎、石田修、伊東明男、川平成雄、河村俊朗、木村泰子、小林道憲、近藤未記絵、香内力、久保憲一、松原望、松島斉、Mukusakuratana Siliporn、永井美代、中嶋亮、中野屋壮吾、野田哲夫、小方孝、小倉明浩、大浦宏邦、大藪敏宏、朴奎相、Sabeh Sayed Gazanpfa、佐々木武夫、佐藤哲彰、榎木哲夫、清家彰敏、関野秀明、瀬谷道夫、白石弘子、立岡浩、高屋定美、田部昇、田中久稔、富田俊基、富田敏之、塚谷恒雄、上田薫、山本耕、矢野俊平、横山彰

3. 11 名の入会申込者のリスト（後掲）が示され、全員入会資格があるものとした。うち、大学院生が 6 名、社会人が 3 名、海外在住者（台湾）が 1 名と多様であった。数人については推薦者から説明があったが、入会の手続きや審査慣行・基準などを文章にできないかという意見があった。この 11 名の入会資格審査済みの方を加えて、退会者を減じると、現在の会員数は 542 名（うち学生 82 名、団体 1）になる。また、大会運営委員会から、入会申込書などの審査資料が整わなかったため、入会審査を次回にまわさざるを得ない方（大会時の報告申込者でまだ非会員の方）がいるという発言があった。

4. 吉田常任理事が、2 監査委員の署名の記された平成 13 年度決算報告（後掲）について説明があり、澤邊監査委員から監査報告があった。

5. 吉田常任理事から、本年 8 月 23 日現在の資産として、借入金 237,500 円、総額で

5,263,299 円の資産があることが報告された。

6. 磯谷選挙管理委員長から、本年6-7月に行われた第III期の役員選挙の結果報告があった。6月28日に投票用紙と選挙権者名簿を送付、7月26日(消印有効)投票締切り、8月1日に開票。選挙権有資格者532名、うち在外による休会扱い者3名を除いた529名(海外送付4を含む)を選挙者としたが、転居先不明による返送が7通あったので、実際の選挙者は522名である。しかし、投票者総数は85名にとどまり、さらにそのうち外封筒に会員氏名がないため無効にしたものが10名あり、有効投票者数は75名と低調であった。

会長として塩沢由典現副会長、副会長として八木紀一郎会員が選出された。

理事は、アルファベット順で、有賀裕二、浅田統一郎、出口弘、海老塚明、江頭進、平野泰朗、平山朝治、弘岡正明、依田高典、磯谷明德、金子勝、三土修平、宮本光晴、室田武、長尾伸一、西部忠、西山賢一、岡村東洋光、酒井泰弘、瀬地山敏、清水耕一、鈴木興太郎、高安秀樹、植村博恭、宇仁宏幸、若森章孝、山田鋭夫、山脇直司、吉田和男、吉田雅明の30会員が選出された。

来春の会員総会での承認の後、2003年4月1日から2006年3月31日までが任期である。

7. 宮本大会運営委員長から、第7回東京(専修大学・生田)大会の大会報告申込がまだ20台にとどまっているので、申込期限を延長したいとの提案があり了承された。申込期限は9月末までとされた。運営委員会の企画や会員有志の独自企画もプログラム編成に間に合う限り考えたいとのこと。報告や企画のタイトルについては、ニューズレターで伝えられる。

8. 編集委員会の活動について、八木委員から説明があった。〈ゲネシス進化経済学2〉は、『社会経済体制の進化と移行』と題して今年末に刊行される。同シリーズの3は、瀬地山現会長の責任編集で平成15年度中の刊行をめざしているが、その内容と編集方針についての説明があった。さらに、午前中におこなわれた編集委員会での英文誌創刊についての検討状況が説明された。たとえば Evolutionary and Institutional Economics Review (EIER) などの誌名が考えられること、範囲と目標(雑誌の趣意)、編集方針、投稿規定、財務基盤など、成文化を含む検討に入っていることなどであり、次回会員総会に提案し承認されるならば、企画執筆の依頼・予約購読の確保などの活動に入る。

9. 事務局から、9月10日にはこだて未来大学で開催された日本オペレーションズ・リサーチ学会のマルチ・エージェント・システムについてのシンポジウムにもちまわり常任理事会の決裁によって共催者となったことの報告があった。また、学会創立以来6年を経過しつつあるので、日本経済学会連合への加盟を準備したいという提案があり、了承された。

(文責:事務局担当 八木)

第7回大会東京（専修大・生田）大会プログラム案
（採択報告・企画報告とセッション分類）

3月29日（土曜）午前

技術革新への進化経済学的アプローチ

(92A)

・依田高典（京都大学）

On the Co-evolution of the Product Quality and the Consumer Preferences

（製品の品質と消費者の選好の共進化）

・中敷領孝能（熊本学園大学）

複製、あるいは情報の経済学

・堀出一郎（麗澤大学）

企業進化とイノベーション理論

実験経済学とシミュレーション (92C)

・小川一仁（京都大学大学院）

井寄幸平（神戸大学大学院）

小田宗兵衛（京都産業大学）

マーケットマイクロストラクチャーへの実験経済学的アプローチ

—仲介業者の価格競争と市場厚生—

・谷口和久（大阪産業大学）

投資循環の実験的分析

・瀬尾崇（京都大学大学院）

小川一仁（京都大学大学院）

木村雄一（京都大学大学院）

労使交渉を考慮した企業群の競争過程—J.

S. Metcalfe のモデルを手がかりに—

統計力学・経済物理学 (92D)

・逸見彰彦（マーケティング総合設計研究所）

経路従属のシンタクス計測可能性と、再投

資問題

・中山晶一郎（金沢大学）

中村泰之

制度経済学における制度変化論—諸学派における比較検討を中心に—

・七條達弘（大阪府立大学）

小林創（大阪府立大学）

アレのパラドックスの理論

制度としての物語セッション (92B)

29日午後第1セッション

貨幣論のフロンティア (92A)

・高橋達二（神戸大学大学院）

郡司ペギオ幸夫（神戸大学）

貨幣の起源—原生交換における媒介者の個物化過程

・郡司ペギオ幸夫（神戸大学）

原生交換・その基本モデル：内的視点はいかに構成可能か

・篠原修二（京都産業大学）

市場性に基づく主体の需要行動について

オーストリー学派と新制度派経済学 (92B)

・手塚公登（成城大学）

企業組織の生成と仲介機能 情報費用の節約と信頼形成の観点から

オーストリア経済学と新制度派経済学

・渡部直樹（慶応大学）

オーストリア経済学の進化概念の新制度派経済学への影響

・池本正純 (専修大学)
企業家機能の視点からの企業理論の展開
・丹沢安治 (中央大学)
制度へのロックインとコントロール

リスク社会論 (92D)

・高橋聡 (中央大学)
L.ワルラスの市場社会像 エコノミ・ソシ
アルの視点から

29日午後第2セッション

グローバル資本主義との共生 (92A)

パネリスト
・佐伯啓思 (京都大学)
・平井俊顕 (上智大学)
・金子勝 (慶応大学)
・司会/宮本光晴 (専修大学)

社会科学と数学の哲学 パネル・セッション (92C)

学説史の中の進化経済学 (92D)

・泉 宏明 (NEC 広島)
完全競争均衡は一般均衡か? ~予定調和
の世界から自我の葛藤の世界へ~
・木村 雄一 (京都大学大学院)
ライオネル・ロビンズと市場経済
・吉田昌幸 (北海道大学大学院)
企業家活動と市場過程の継続性-「制度進
化」に対する「企業家論」的アプローチ
について

3月30日(日曜)午前のセッション

思想の流れから見た進化経済学 (92C)

岡村東洋光 (九州産業大学)

自由主義から新自由主義への進化~ラウン
トリーを事例に~

・戸田宏治 (福岡大学大学院)

R.ポズナーの実践的推論

・山本泰三 (京都大学大学院)

科学論の変遷と問題としての实在論

ストック価格へのアプローチ (92D-1)

・馬場真一郎 (京都大学大学院)

株式市場規制と投資行動

・石井吉文 (ニッセイアセットマネジメ
ント)

株価の決定論的非線形予測の可能性につい
て

進化ゲーム・再考 (92D-2)

・清水和己 (早稲田大学)

進化ゲームによる制度生成の説明について

-批判的観点から-

・江口友朗 (名古屋大学大学院)

制度経済学における制度変化論-諸学派に
おける比較検討を中心に-

SNA と制度設計セッション (92B)

U-Mart セッション (92A)

30日午後第1セッション

制度進化への経済史的アプローチ (92A)

・瀬尾 崇 (京都大学大学院)

「移行経済における労働市場の制度的アプ
ローチ」

・宇仁宏幸 (京都大学)

・梁峻豪 (京都大学大学院)

韓国における輸出志向的工業化による経済
成長

・宋磊 (京都大学大学院)
中国における輸出主導型成長の制度分析

現代の危機を政治経済学で解説する (92C)

・野口真 (専修大学)
Shareholder Capitalism を超えて コーポレート・ガバナンスの政治経済学の可能性

・鍋島直樹 (富山大学)
資本主義経済の不安定性とその制度的進化
ミンスキーの分析

・松井暁 (立命館大学)
所有権論と規範の進化 コーエンによるノージック批判を素材に

チュートリアルセッション (92D)

・有賀裕二『進化経済学と複雑適応系』(共立出版、2003年公刊予定)

30日午後第2セッション

制度進化の現場へアプローチする (92A)

・七條達弘 (大阪府立大学)
小林創 (大阪府立大学)
調整ゲームにおけるパレート最適な状態の実現方法- りんくうタウンの土地売却方法に関する一考察

・富澤拓志
開発と生産、分業-金属加工業における最近の事例から

・富澤拓志 (産業技術総合研究所), 稲垣伸吉 (東京大学), 喜多一 (大学評価・学位授与機構), 寺野隆雄 (筑波大学), 湯浅秀男 (東京大学 / 理研BMC), 出口

弘 (東京工業大学), 松木則夫 (産業技術総合研究所), 澤田浩之 (産業技術総合研究所), 小口裕司 (株式会社ダイヤ精機製作所), 大橋俊夫 (インダストリーネットワーク株式会社)

オープン型ものづくりにおけるコミュニケーションプロセス:ある研究用ロボット開発事例の分析から

金融システムへの進化経済学的アプローチ (92C)

・服部茂幸 (福井県立大学)
Endogenous Theory of Money and the Stock of Money in Japan

・内藤敦史 (一橋大学大学院)
貨幣的循環理論と流動性選好

マルチエージェントベースのアプローチ (92D)

・出口弘 (東京工業大学)
社会学習動学と組織社会学習のリーサーチプログラム

・李皓 (京都大学大学院)
出口弘 (東京工業大学)
ハイテク産業の多国間技術競争 -異なる政府間での政策の有効性-

・江頭進 (小樽商科大学)
嘘つきの出現を考慮した経済モデルのシミュレーションモデルの研究

・在間敬子 (専修大学)
環境配慮型社会と情報・学習: エージェントベースアプローチ

進化経済学会 平成 13 年度 決算 (平成 13)

収 入			支	
概 要	13 年度 予算額	13 年度 決算額	概 要	13 年度 予算
前会 年度繰越費 (内訳)員 (502名)員 院生会(77名)員 賛助(77名)員 (2団体)員 書利	3,000,000	3,523,021	大通進	1,200,000
	5,505,000	3,972,493	化経済	500,000
	5,020,000	3,677,493	事務出用	1,300,000
	385,000	245,000	通件	200,000
	100,000	50,000	手(理事等)	300,000
	0	301,000	金費(事務)	390,000
	0	320	会費(理事等)	400,000
			講演会謝礼	200,000
			印刷会等補助	200,000
			費(印刷)	200,000
		小計	4,730,000	
		平成 14 年度 への繰越金	3,775,000	
総計	8,505,000	7,796,834	総計	8,505,000

上記の通り相違ないことを確認致しました。

平成 14 年 7 月 22 日

進化経済学会

監事

宮

澤

**第6回複雑系国際会議
CS02 報告**

中央大学商学部 有賀裕二

2002年9月9日-11日、主として中央大学2号館4階で開催された。正確には、The 6th International Conference on Complex Systems: Complexity with Agent-based Modeling という会議で、もともとはオーストラリアの複雑系研究グループが1992年に第1回会議を組織化し、以後2年ごとに開催されてきたものである。当初から参加していた生天目章教授(防衛大情報工学科)がジェネレータを引き受け、有賀と David Green 教授(10月よりオーストラリア Monash 大学)が共同議長となって開催する運びとなった。第6回目開催という伝統もあり、別表のプログラムどおりにほぼ例外なしに規則正しく進行された。海外参加者は三分の一を占め、最終プログラム確定以前に棄権した1名を除いて、発表者の棄権も発生しなかった。予定された plenary talks はもちろんすべて実現された。開催の3日間、連日、60人ほどの参加者を確保して、賑やかな会議であった。まだ夏の余韻が残る時期、地ビール「多摩ビール」レストランでのレセプションも楽しいイベントになった。皆、和気藹々愛!実に楽しい会議となった。会議は快適に11日、定刻どおり無事終了したことを報告します。また、本会議は、有賀を代表者とする科研費研究「社会ゲームの学融合的展開」(基盤(C)(1)課題番号40137857)の共催研究会としてあらかじめ計画しており、予算上、貢献した。な

お、大会報告集は Proceedings として印刷配布されたほか、selected papers はジャーナル *Advances in Complex Systems* (World Scientific) の特集号に掲載されることになった。

実は、この会議のオープニングは、同時開催の DCDNS3 という会議と共同で始まった。DCDNS3 はイスラエルの Sonis 教授と Gontar 教授が共同編集する *Discrete Chaotic Dynamics* というジャーナルの後援で開催されており、会議の趣旨は異なる。こちらの会議は社会への応用も重視するが数学、物理を含む自然科学全般に大きな力点が置かれている。しかし、経済物理などのセッションでは当然、重複がある。両方の会議への同時参加者は1割程度いたと思われる。そのため、初日のレセプションは大学の会議室を借りての共同開催となった。

初日の共同レセプションでは、有賀の発案で、中央大学グリークラブの演奏を計画した。早稲田などの大手のグリークラブとは異なり、中大グリークラブは多数の外国人を眼の前にして初めての演奏であった。応援歌から日本民謡まで披露し全力を尽くして披露してくれたが、初めての経験で学生たちは最後ちょっとアガッてしまった様子。しかし、UCLA の青木正直先生をはじめ喜んでもらったのは嬉しかった。シナジェティックス社会学で名高い物理学者 Wolfgang Weidlich 教授もわざわざやって来て、自分は少年時代、ドレスデンで prestigious な聖歌隊 Dresdner Kreuzchor のメンバーであったと言い、とても楽しかったと言うのであ

る。こういう話が登場するのも、国際会議の楽しみの一つである。ちなみに、Weidlich 教授は DCDNS3 のゲストであり、また、このレセプションの会話がきっかけで、私は、Weidlich の新著 Sociodynamics の監訳を引き受けさせられることになってしまった。これはちょっとした苦痛であるが、やはり国際交流の有意義の一つと数えてよいのだろう。

進化経済学会メイリングリスト evoeco-japan で何度かアナウンスしたように、われわれの CS02 は、進化経済学会の後援である。会議の議長をはじめ、10 名近くの進化経済学会会員が発表あるいは事務局で活躍したと思われる。進化経済学会の塩沢由典副会長は特別講演を行ったほか、富森虔児監事が特別セッション講演を行った。会議の全般の様子は有賀のホームページ <http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~aruka/activities.html> のアニメーションで見ることができる。

進化経済学会の縁ではさらに特筆すべきことがある。Mauro Gallegati (イタリア Ancona 大学) とは JAFEE2000 以来のなつかしい再会となった。彼は長身の大男であるが進行性の ataxia (運動失調症) という病に冒され、前回来日時より状態は悪くなっていた。進化経済学会会員の吉地望氏 (現在、イタリア Ancona 大学滞在中) が補助をして同伴された。Gallegati 教授は病魔と闘いながらも、今年 5 月トリエステでは、第 7 回目の WEHIA (Annual Workshop for Economics and Interacting Heterogeneous Agents, 2003 年はドイツ・キールで開催。URL は <http://www.bwl.uni-kiel.de/vwlinstitute/gwrp/w>

ehia/home.htm) のジェネレータとなるなど、精力的な研究、組織化活動を展開している。吉地氏の誠実な介護は、誰の眼からみても、心温まる姿であり、彼の人格、懐の大きさを感じさせてくれた。

さて、CS02 の特別講演は以下のとおりであった。

Agent-based Approach--- Yoshinori Shiozawa
Modelling, Simulation, and Guidance of
Dynamic Decision Behavior--- Dirk Helbing
Complexity: Metrics and Modules--- Terry
Bossomaier

Applications of Ewens-Pitman-Zabell Inductive
Methods in New Economic Dynamics---
Masanao Aoki

Complexity Dynamics and Fragility in an
Agent Based Model---Maruo Gallegati

有賀は CS02 最後の全体セッションで、summary を与えた。この summary は特別講演を基調として有賀が得た感想である。

Herman Haken の議論は Weidlich に大きな影響を与えた。ところで、マクロパターンの形成が行われるとき、マクロ秩序変数の間に、holonic participants の発生を考察しようとするのが清水博である。なお、Holonic participants という表現は富森虔児による。Bossomaier はホーリスティックな観点として老子の哲学に触れたが、マクロ秩序の問題は、生物であろうが、無生物であろうが、共通の問題である。

Weidlich は Haken による LASER (Light Amplification by Stimulated Emission of

Radiation) の研究を引用して、ゆらぎ運動が指数解で表現されるとき、サイクル解とトレンド解に分解し、トレンド解の制御がサイクルを規則的に抑え、レーザ光線を生み出すということを紹介している。このアイデアは、実際、有賀ゼミの U-mart 実験で応用され、無敵のエージェントにのし上っている。数学的には高度ではないが、ていねいな実験、応用を行えば、自然界にも社会にも応用可能な原理が隠されている可能性があると思われる。

マスター方程式の利用により、たとえば、道路上の交通制御のような人と車のハイブリッドな社会システムについては、きわめて高い精度でシミュレーションが行える。これは Weidlich の弟子である Dirk Helbing によって示された。その際、遷移確率も「群集心理を表わす値」に読み替えることが可能である。この観点から、社会動学の可能性を探ることができる。

いま、モデル構築について、エージェントのタイプ、エージェント数のサイズで区分する。青木正直がたびたび注意している様に、経済モデルで絶対水準が重要であるような場合、失業率を $[0,1]$ 上の確率的比率で表現しても、有益な研究にならない。現段階では、モデルは目的に応じて変えていく必要が起こる。

エージェント数が巨大で、また天文学的数字を扱うとき、「経済物理学」のような研究は妥当性が高い。フラクタル分布が観察されるであろう。脳のニューロンレベルでもこれと似たことがあり、そこでは、群集

心理や模倣行動あるいは懲罰行動として、自己強化機構が働くであろう。しかし、ここでは集計的性質の導出のみに偏る傾向がある。

また「マルチエージェントベースモデル」では、エージェント数も変数も中間的サイズである。しかし、サイズが相対的に小さくても、上記と同じことが、つまり、べき法則のようなものが擬似的に起きる可能性がある。Gallegati と Kichiji はこのモデルを用いて金融と企業分布のシミュレーションを行い、この点を分析している。これとは別個であるが、U-mart のような人工知能実験でも同じ可能性の検証が期待される。塩沢由典は、テストベッドとしての U-mart の意義を全般的に紹介した。なお、いわゆるオークションは単一商品を取引対象とする機構であるのにたいして、U-mart は合成財の先物市場である。

いずれの場合も、マイクロエージェントないしはマクロレベルでの学習が作用していることが推測される。マクロ過程が新奇性を伴うとき、学習は新奇な環境適応を実現しなければならない。とくに青木正直 Masanao Aoki, *Modeling Aggregate Behavior and Fluctuations in Economics*, Cambridge U.P., 2002 において、新規に発生するエージェントの分布パラメータが未知である場合の社会モデルを定式化した。青木モデルは、現有の社会的複雑適応系モデルでもっとも進化したモデルと考えられる。

ところで、コンピュータ上での応用可能性のもっとも高いモデルとして、いわゆるリ

プリケータダイナミクスがある。このモデルで扱う客観的確率を主観的確率に置き換えて読む方法は、Fudenberg や出口弘などによって行われている。出口弘はこの観点からリプリケータダイナミクスを「社会学習動学」と呼んでいる。このダイナミクスの欠点は、変数の数は通常、数個である。異質的エージェント数は大きくできない。これは数個の subgroup の相互作用を説明するために便宜的なモデルであり、subgroup dynamics と呼んでもよいと思われる。

このように社会動学の接近にはいくつかの可能性がある。しかし、社会過程を確率的過程として捉え、とくに非定常状態の遷移を捕捉するために、リプリケータダイナミクスはさらに新たな改善を要求されるのである。これは出口弘も認めるところである。マスター方程式のアイデアを踏襲することは社会動学研究の共通の出発点となるであろう。こうした研究は、Helbing の研究にも顕著に現れているが、青木正直の研究がもっとも精密なモデルを提示していると思われる。最後に、青木教授の著書はご自身の手によって、日本語版が青木正直著『異質なエージェントの確率動学入門』共立出版（経済社会の数理科学シリーズ、有賀裕二、中島眞澄他編集）として、近く出版されることをお知らせして本報告を終えることにしたい。

第2回中国制度経済学研究会 への参加報告

京都大学 八木紀一郎

中国で制度主義の経済学が流行している*。その中心の一つになっているのが、北京天則経済研究所で、これは民間の研究所だ***。この研究所は、昨年9月には、北京大学の中国経済研究センターと共同で、第1回の「中国制度経済学研究会」を開催した**が、第2回を9月の25-26日に杭州でやるので来いという案内が来た。今度の案内では、海外の著名学者を招くと書いてあるので、昨年のように外国人1人だけというような心細いことにはならないだろうと思って、参加することにした。はじめの暫定プログラムでは欧米人の名前もあったが、結局、参加したゲストは青木昌彦さんと私だけだった。宿泊はもつが、渡航費その他は自弁で来て欲しいという招待状では、欧米の学者たちは動かなかったであろう。（青木さんの産業経済研究所の関志雄研究員も来ていたが、演壇には立たなかった。）

*後出の関志雄(KanSiyu)研究員が主催しているサイト「中国経済新論」(<http://www.rieti.go.jp/users/china-tr/jp/mokuji.htm#pagetop>)に掲載されている諸論文を参照せよ。

**その参加印象記は『進化経済学会ニューズレター』の第11号に寄稿した。

***最近、『中国社会科学評論』(Chinese Social Sciences Review)を創刊し、その1,2号は研究会の参加者に配布された。

参加者は名簿にのっているのが、111名だ

が、大学院生が2-30人くらい入っている。報告者の中心は、30-40才台でみな若い。今回は浙江大学に天則民営経済研究センターが創設されたということで、はじめは北京天則の張曙光所長、茅干軾理事長のほかには浙江大学や党委員会、省政府のお歴々が壇上にあがった開所式のようなものがあった。その後、第1日に9報告、第2日に7報告とゲスト講演があった。そのタイトルを翻訳してあげると以下のようである。

陳志俊「経済組織のなかでの結託問題」
 楊曉維「行為契約と目標契約」
 陳宇峰・賈生華「多段階選抜のメカニズムと競争効率：中国の高等教育制度の変遷を例にして」
 陳銘貧・陳劉「協調ゲーム企業の形態転換とその制度変化・経済成長に対する意義」
 趙農「権威関係の形成と企業の性質」
 張維迎・郊峰「情報、インセンティブと連帯責任」
 陳劍波「制度転形のなかでの成長：どのようにして多数の人を成長過程に参加させ、成長の利益を分与するか」
 張宇燕・時紅秀・李增剛「集中決定と分散管理：農地所有権の新しい形態」
 黎秀蓉「ゲームの結果としての制度2：東幹村の農村基礎民主制の変遷」
 柯榮柱「標会（頼母子講）とその保険機能」
 章奇「中国農村の税費負担：政治経済学的考察と分析」
 臧微「公共支出、調整費用と経済成長」
 汪天喜「監督者の起用の有効性」
 金祥榮・朱希佛「工業地帯の期限と進化」
 程燎「“軍転民”と政府供給の工商一体化」

劉峰・李汝「制度の機能と会計情報の質2：銀行の事例分析」

全体としてはゲーム理論の企業・産業への応用が多いが、古来の腐敗防止法や伝統的な互助金融に言及されたり、農村や都市の制度改革の事例が出てきたりするところが中国らしい。また、狭義の経済制度と限らずに、教育制度や司法制度についても議論されているのは好ましい。産業集積の分析についての複雑系/進化経済学的分析もようやく導入され始めたようだ。しかし、私自身にとっては、中国の成長戦略として中部地区の工業化を主張した報告や、軍民転換問題、農村の税負担などの政治経済学的分析の方にリアリティを感じた。閉会の辞で張所長は中国的経済学の創造の夢を語ったが、私としては中国の制度経済学がこうした政治経済学的な現状分析・政策提言と手を携えて進むことを願っている。

招待講演の部で青木昌彦さんは、最近の研究の要約として、経済制度の多様性についての入門的説明をしたあと、モジュール化を軸にした最近の動向について論じた。パワーポイントに中国語の見だしを仕込んでいたが、レクチャーは英語だった。私は、規範の承認の基本構造について、馮銳さん（大阪市立大学院生）に通訳をお願いして日本語で話した。（中国語で作成したOHPを用いた。）その他、高力、余暉、幹朝貨、盛洪の諸氏がそれぞれに短めのレクチャーをした。

最後に余計ながら、二三の見聞を記す。＜その1＞大学院生を含む若手グループのテーブルに入ったら、日本のことが話題になった。筆談に頼らざるをえない私を尻目

に彼(彼女)等は勝手に盛り上がっている。何を話しているときいたら、日本のアニメをいくつ見たかを数えているとのこと。どうも、日本経済よりも、日本アニメの方が深い影響を若者に及ぼしているということか。

<その2>会場は西湖のすぐそばの1級地にある華北飯店で、建物は風格があり、会議場も立派だった。ホテルのような料金表は出ているが、どうも軍関係の施設らしく、食堂でも、制服の軍人のグループがテーブルを囲んでいた。英語はほとんど通じない。入り口の門衛所には、浙江軍区第一招待所という看板がかかっていた。地図を見ると、付近にかなりの面積をとった解放軍の病院がある。日本の自衛隊も病院(直営)や保養所(共済組合)を持っているが、中国では工場だけでなく、企業集団までもって経済活動をしているとのこと、これは市場

化のもとでどうなるのだろうかと思っていたら、2日目にその問題を取りあげた報告があった。

<その3> ホテルの周囲を散歩したが、「社区」の名称で、住民へのサービス内容の掲示がされている。コミュニティにあたるものだが、以前の「住民委員会」の掲示よりも親切なものになって来ている。飛行機の中で読んだ『人民中国』の10月号によると、政府は多くの職務を「社区」におろすとともに、「社区」をかつての政府による指導・統制の単位から、住民が民主的・自主的に運営していく単位に変えようとしているらしい。「社区」の広報の中には、失業などによる生活困難者への対応もあげられていた。倒産・失業のリスクをとまなう市場経済の進展のなかで、コミュニティの機能が再度注目されはじめたということであろうか。

====英文出版物案内====

Nonlinear Dynamics, Psychology, and Life Sciences, vol. no.2 (April 2002)

Special Issue: Evolutionary Economics (2000年東京大会特集号)

Guest Editors: Akio Matsunoto and Yuji Aruka

* Introduction to the Special Issue: Evolutionary Economics ----

Akio Matsumoto and Yuji Aruka

* Theory of Complex Systems and Economic Dynamics ---- Wei-Bin Zhang

* Implications for Fisheries Policy of Complex Ecologic-Economic Dynamics ----

J. Barkley Rosser, Jr.

* Universal Laws in Application to Evolutionary Economics ---- Kirill Sadtchenko

* The Complexity of Collective Decision ---- Saori Iwanaga and Akira Namatame

* Evolutionarily Stable Coalition Structure ---- S. Ho

* Common Owning, Transmission, and Development of Knowledge ----

Susumu Egashira and Takashi Hashimoto

*Bottom-up Consensus Formation in Voting Games ----

Hiroyuki Iizuka, Masahito Yamamoto, Keiji Suzuki, and Azuma Ohuchi

* The Determinants of Stock Price Volatility: An Industry Study ----

Mariana Mazzucato and Willi Semmler

* Speculative Price Dynamics in a Heterogeneous Agent Model ---- Taisei Kaizoji

【学会購入分を会員に、送料込み 1,500 円でおわけします。学会事務局にお申し込みください。】

Evolutionary Controversies in Economics:

A New Transdisciplinary Approach

Ed. by Yuji Aruka as a Publication of Japan Association for Evolutionary Economics, Springer Verlag Tokyo, June 2001

【シュプリンガー東京への直接注文による特価期間は終了しました。これからは、学会事務局宛にご注文ください。学会購入分を送料込み 5,000 円で頒布します。校費でのご購入の際は、必要な書類を注文の際にご連絡ください。】

.....

ゲネシス進化経済学第2弾

進化経済学会・八木紀一郎編『社会経済体制の移行と進化』

シュプリンガー・フェアラク東京（近刊）

イントロダクション

第1部 移行経済の考察視角

第1章 体制移行における進化的視点 八木紀一郎

第2章 移行過程への進化的制度的接近 エリック・マーニャン

第3章 進化経済学と現代ロシアの諸問題 ウラディミール・マエフスキー

第4章 ポーランド・ドイツ間貿易とポーランドの経済成長 富森虔児

第5章 移行経済学の一般理論をめざして 盛洪

第II部 歴史としての進化と移行

第6章 資本主義を共産主義のやりかたでつくる：東欧の欠陥だらけの移行

カジミール・ポズナンスキ

第7章 ドイツ再統一過程における私有化と事業創造の進化

ハンス・ペーター・ブルンナー

第8章 インドの経済成長体制とその進化 ジョン・アダムス

付録 国際シンポジウム：プログラムと総括報告

【これは、刊行され次第、会員に配布されます。】

**第7回進化経済学会
東京（専修大・生田）大会**

2003年3月29日（土）、30日（日）

開催場所：専修大学生田校舎9号館
（川崎市多摩区東三田2の1の1）

テーマ：グローバル資本主義への進化経済学的アプローチ
（暫定プログラムは本号4-6ページをみてください）

第7回進化経済学会東京（専修大）大会運営委員会

委員長・宮本光晴（専修大学経済学部:miyamoto@isc.senshu-u.ac.jp）
副委員長・石塚良次（専修大学経済学部:ishizuka@isc.senshu-u.ac.jp）
事務局長・吉田雅明（専修大学経済学部:yoshida@isc.senshu-u.ac.jp）

○郵送の場合：

〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1 専修大学8号館4F 吉田研究室内
進化経済学会東京（専修大）大会運営委員会 宛

○電話：044-911-0694（吉田研究室）

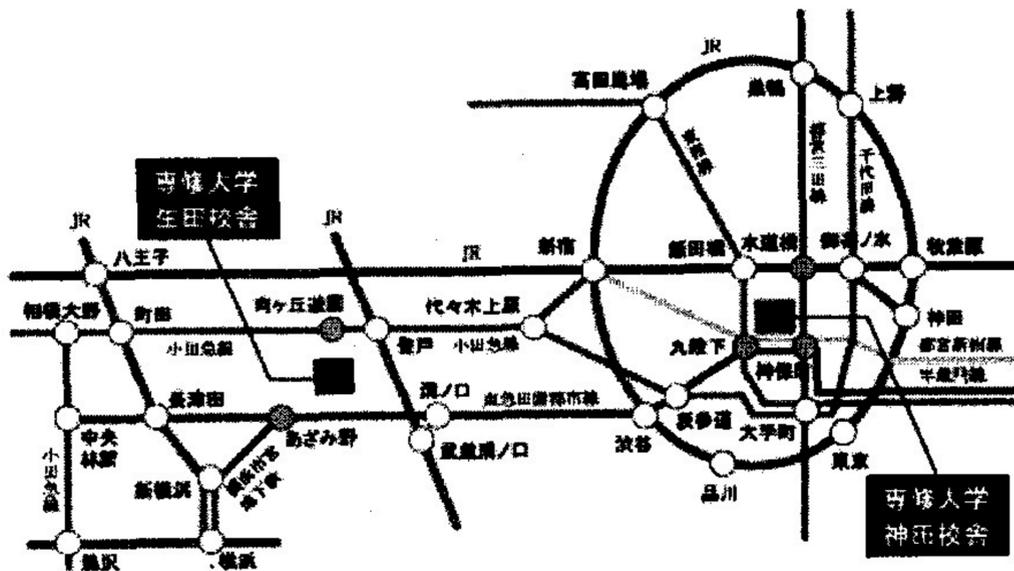
○電子メール：evoecon@isc.senshu-u.ac.jp

○ホームページ：<http://www1.isc.senshu-u.ac.jp/~the0433/evoecon.htm>

【学会事務局から】

- * 本年度会費未納者宛には、会費納入依頼状と振込用紙が同封されています。どうぞよろしくお願ひします。
- * 学会のニューズレター、大会報告論集、その他、学会配布物が届いていない方は、郵送先をご連絡ください。
- * 学会メイリングリスト evoeco-japan にまだ加わっていない方は、登録希望のアドレスを学会事務局にお伝えください。
- * ニューズレターは、毎年春と秋に刊行・配布しています。今号は、あと2点くらい読み物になる記事が欲しかったところです。投稿記事を歓迎します。（提言、短めの論文、書評、海外学会参加記など。）

- 向ヶ丘遊園駅（小田急線）北口より「専修大学前」行きバスで約10分→終点下車
- 向ヶ丘遊園駅（小田急線）南口より徒歩18分
- 向ヶ丘遊園駅（小田急線）北口より「専修大学9号館」行き100円（専大生限定）バスも運行
- あざみ野駅（東急田園都市線・横浜市営地下鉄）より「向ヶ丘遊園駅」行きバスで約25分→松下電器川崎ゴルフ場入口、または専修大学120年記念館前下車



●向ヶ丘遊園駅から生田キャンパスへ

